

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ほほえみ		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 17日 ～ 2025年 3月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27 (回答者数)	22
○従業者評価実施期間	2025年 3月 1日 ～ 2025年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4 (回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	土曜日のお出かけイベントの充実 →子どもたちの社会体験や実体験が豊富で、情緒の安定やコミュニケーション力の向上が期待できる。	家庭のようなアットホームな雰囲気づくり →子どもが「ありのままの自分」でいられることで、安心して過ごし、自己表現ができる。	「自由すぎる」雰囲気への対応：活動に応じた切り替えの工夫 →たとえば「お楽しみタイム」と「がんばるタイム」などを視覚的に区別する方法で、自由と規律のバランスをとる。
2	SST（ソーシャルスキルトレーニング）の実施が計画的で内容が多样 →アンガーマネジメントやビジョントレーニングなどを取り入れ、個々の課題に応じた支援が行えている。	型に囚われず、子ども一人ひとりに寄り添う柔軟な対応 →マニュアル化されすぎず、現場職員の裁量と観察力を活かした支援が実現されている。	イベントやSSTの振り返りを個別に実施する時間の確保 →子ども自身が「どんな力が育ったのか」を言葉で振り返る習慣をつけることで、学びの定着や自己肯定感を促進。
3	スペースを有効活用し、遊びと学びが両立できている →アスレチックやハンモックなどを活かした自由な遊びの中で、子どもたちの安心感や自主性が育まれている。 ※今後は、リラックスしすぎる傾向にある子どもへのメリハリの工夫や、イベント後の振り返りや活動の「意味づけ」の強化が期待される。	SSTにアンガーマネジメントやビジョントレーニングなど新たな要素を取り入れている →支援の質を高め、子どもたちの情緒や身体感覚へのアプローチを実施。	人気の遊び（アスレチック・ハンモック）を活用した支援活動の明確化 →体幹トレーニングやストレス解消など、「目的のある遊び」として位置づけていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもたちがリラックスしすぎて、自由になりすぎている面がある	「家庭のような安心感」を重視するあまり、集団としてのルールや社会性の育成が後回しになる傾向	自由とルールのバランスをとるため、活動前後の「はじめ」や「見通しの共有」の工夫が必要
2	アットホームな雰囲気が強く出ており、場面に応じたけじめや切り替えが難しくなることがある	人気の遊具（アスレチック・ハンモック）に子どもが集中しやすく、活動の幅が偏る	SSTや集団活動の際には、明確な目的・ルール・流れを子どもに分かりやすく伝える仕組み作り
3	自由遊びの時間とSSTなどの学びの時間のバランスが取りにくい場合がある	子ども一人ひとりの「自由さ」を尊重しているため、活動の一体感やメリハリを作るのが難しい	子どもたちの「自由さ」を生かしながらも、社会生活に必要なスキルを育てる時間を意識的に設ける